

ハウス内の情報をデータで取得し、栽培環境を最適化

可視化

データ共有

申請事業者：株式会社ひじかた（日南市）
業 種：農業

従業員数：10名
設 立：2020年



適切な温度・湿度・CO₂濃度を維持し、最適な栽培環境を実現！

取組の概要

導入部門：農業生産部署
導入業務：ピーマン栽培管理業務
導入目的：ハウス内モニタリングの自動化、温度・湿度・CO₂濃度調整の負担軽減
導入技術：モニタリングシステム「ハウスファーム」、細霧機器、光合成促進装置
導入手法：ハウスファームでハウス内情報のリアルタイムでのモニタリングを実現し、細霧機器で温湿度の自動調整と葉面散布を行い、光合成促進装置でCO₂濃度を自動調整
導入費用：¥5, 249千円（税抜）



ハウス内モニタリングシステム

適切な温度・湿度・CO₂濃度を提示



細霧機器



光合成促進装置

取組の背景

- 抱えていた問題点
 - ①ハウス内の温度調整が、雨や外気温に左右されやすく手間がかかっていた。
 - ②二酸化炭素や湿度が不足し、適正な果実に育たないことが頻発。
 - ③葉面散布を毎日人の手で行っており、時間を要していた。
- 解決に向けた課題設定等
 - ①24時間ハウス内のデータを取得し、可視化することで、調整の負担を軽減。
 - ②③全て自動で稼働させることで、人の手を介さない、正確な作業を実現。

取組の成果

- ・温度確認にかかる時間を、90%削減
ハウス内の温度を確認する時間 20時間/月 → 2時間/月
- ・温度調整にかかる時間を、80%削減
ハウス内の換気や湿度保持のための散水作業 50時間/月 → 10時間/月
- ・葉面散布にかかる時間を、80%削減
光合成強化のための葉面散布の作業 5時間/月 → 1時間/月